

第11回まちづくり委員会次第

日 時 5月21日(火) 午後7時00分～

会 場 消防庁舎3階 小会議室

1. 開 会

2. 委嘱状交付

3. 委員紹介

4. 委員長あいさつ

5. 協議事項

(1) 今年度の活動について

(2) 第五次総合計画前期基本計画「協働のまちづくりに関する現状把握・活性化評価表」による評価作業について

6. その他

7. 閉 会

「協働のまちづくり」の定着に向けて

まちづくり委員会からの提言

1 まちづくり委員会の活動経過

設置	第4次総合計画 後期基本計画	町民と協働した行政運営を目指す	まちづくり委員会の設置を記載した	<div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">導入期</div> <div style="background-color: #c8e6c9; border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">現在</div>
1期	H18～19	「協働のまちづくり指針」策定	協働のまちづくりの基本方針	
2期	H20～21	「協働ってなあに」(手引書)	全戸配布して協働のまちづくりをPR・シンポジウム開催	
3期	H22～23	「ほたるの里地域づくり耳寄り情報」	地域づくりを活発に進めるための情報提供資料	
4期	H24～25	第5次総前期基本計画「協働のまちづくり」の検証	H24年度(導入期の“棚卸”作業) ・職員との意見交換会の実施	

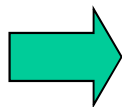
2 24年度の意見交換会を終えて

いかにして定着期に移行するか。
 その為に何を反省して、どのような施策を張り付けるか。PDCAのCの段階。
 次のステージへの施策提言をする。

定着期へ

●「協働のまちづくりの活性化検討シート」にもとづく職員との意見交換の結果

154項目	前期基本計画の第1章～6章までの「協働のまちづくり」項目			
	○	△	×	空欄
町担当の自己評価	103項目	41項目	1項目	9項目
委員会としての評価	<ul style="list-style-type: none"> ・住民と行政との協働って何？ ・5次総テーマ・領域が協働に向いている？協働に向かない項目もあるね。 ・行政側 協働の施策展開はどうするの？標準的やり方があるの？ ・住民側 どうすれば協働に参加できるの？行政側への意思表示はどうするの？ 			



例えば

- ・自主防災組織全区組織化
- ・支えあいマップの取組み
- ・地区社協体制
- ・荒神山再整備WS実施
- ・学校支援ボランティア
- ・・・ etc

3 今年度の活動



評価(棚卸)作業から導いた対策(対応)・施策

1 ● テーマの評価と絞込み(絞込み基準の作成と実施) ⇒ 5月からの委員会で

- ・評価スケールによる絞込み
- ・役場担当課の皆さんと合同で、スケール基準で絞込み
- ・絞り込んだテーマの達成の為の戦略会合

2 ● 住民協働のPR活動とその戦略
事例発表会を委員会主導で開催(8月予定)
(参加者: 議会、役場幹部職員、区長、一般)



協働のスケール				
住民主体	協働領域			行政主体
	行政支援	対等	住民支援	
A	B	C	D	E

協働のまちづくり 成果事例発表会の概要	
1. 目的	<ul style="list-style-type: none"> ・協働のまちづくりの実施成果を公表して課題を探る。 ・協働とはどのようなものか? 町民の疑問に実施例から答えを出す。 ・導入期から次へのステップとしてのキックオフとしたい。
2. 発表会の考え方、位置付け	<ul style="list-style-type: none"> ・行政と町民とは、協働の趣旨であるWin-Winの原則の堅持。 ・ケーススタディーから協働の次のステップへの課題を探る。 ・多くの参加者を得て実施し、情報共有する。
3. 発表会の進め方(案)	(1)開催目的の共有 (2)協働領域B, C, Dから各1の取組み発表 (3)感想、意見交換 (4)総評、これからの委員会の取組み方針 ※ 8月の土曜日、1時間30分から2時間程度
4. その他	<ul style="list-style-type: none"> ・発表方法については、標準的なものを事務局が作成し、関係課と調整する。 ・この取組みは、「施策評価」における「町民との協働のあり方の妥当性」といった評価項目を設定する中で活用できる。

3 ● 協働のプラットフォーム

- ・ 交流場所(物理的広場)
- ・ 新しい協働の仕組みの誘発 (ソフト)

協働コーディネータの必要性

4 ● 地域コミュニティの活性化

- ・ 区長会や分館主事会議の活用
- ・ 「職員地区担当制」担当職員の活用